

閑寂な庭内に一步足を踏み入ると、 そこはわび、さびの世界。

芭蕉翁ゆかりの俳跡で、名句、傑作めざしてぜひ一句いかがですか。

芭蕉翁記念館 (上野公園)



昭和34年(1959) 神部満之助氏の篤志寄付により俳聖芭蕉翁を顕彰する事業のひとつとして建てられました。館内の芭蕉文庫には翁の真蹟をはじめ近世から現代に至る連歌俳諧に関する資料等が数多く保存されています。



展示室ではこれらの資料を常時展示しています。



〒518-0873 三重県伊賀市上野丸之内117-13 TEL 0595(21)2219
■8:30~17:00(入館受付は16:30まで)
休年末年始、展示替休館あり ※和室の利用についてはお問い合わせください。

み の む し あ ん 蓑虫庵 (上野西日南町)



無名庵、西麓庵、東麓庵、瓢竹庵とともに芭蕉翁五庵のひとつとされていますが、この中で唯一現存するのがこの蓑虫庵。芭蕉翁の門弟服部土芳(どほう)の草庵で、貞享5年(1688)3月庵開きの祝いとして芭蕉翁が贈った句「蓑虫の音を聞に來よ草の庵」にちなんで名づけられました。土芳はここで芭蕉翁の遺語を集めて『三冊子(さんぞうし)』を執筆しています。



〒518-0848 三重県伊賀市上野西日南町1820 TEL 0595(23)8921
■8:30~17:00(入館受付は16:30まで)
休毎週火曜日、年末年始

芭蕉翁生家 (上野赤坂町)



芭蕉翁は正保元年(1644)、伊賀市で生まれました。幼少より藤堂藩伊賀付の侍大将藤堂新七郎家に仕え、嗣子蟬吟とともに俳諧を学びました。江戸に出て俳諧師となり、37歳のとき『桃青門弟独吟二十歌仙』を刊行、俳壇における地位を確立、遂に蕉風俳諧の祖と仰がれる新規の俳風をうちたてましたが、元禄7年(1694)10月12日51歳のとき旅先の大坂で生涯を閉じました。

※奥庭の離れには、芭蕉が処女撰集『貝おほひ』を執筆した釣月軒もあります。

〒518-0871 三重県伊賀市上野赤坂町304 TEL 0595(24)2711

■8:30~17:00(入館受付は16:30まで)

休毎週火曜日、年末年始

俳聖殿 (上野公園)

芭蕉翁の旅姿をあらわす聖堂で、堂のなかには伊賀焼の芭蕉翁瞑想像が安置されています。



故郷塚 (上野農人町)

遍光山願成寺という真言宗のお寺。松尾家の菩提寺で、境内に芭蕉翁の遺髪を納めた故郷塚があります。



上野天神宮 (上野東町)

芭蕉翁が宗房という号を使っていた29歳の時、伊賀の俳諧仲間句をあつめ、『貝おほひ』と名づけ奉納しました。



芭蕉祭 (10月12日)

元禄7年から毎年芭蕉翁の命日に催されてきた「しぐれ忌」が、昭和22年より芭蕉祭として発足しました。